

ケースメソッドについて

新潟大学 教育・学生支援機構

教育・学生支援企画室 上畠 洋佑

E-mail: uehata.yosuke.dc@ehome-u.ac.jp

SPODフォーラム2019 プログラム 2803D
「あなたもできるケースメソッド型授業・研修」

日 時：2019年8月28日（水）15:30-17:30
会 場：愛媛大学 城北キャンパス 愛大ミューズ（2階）M24講義室

0. 到達目標

1. ケースメソッド型ワークショップの体験学習を通して、ケースメソッドがどのようなものか説明することができる。
2. 本プログラムで学習したことを用いて、自らが担当・企画しているSDプログラムまたは授業科目をより良いものにするためのヒントにすることができる。

1. ケースメソッドとは

ハーバードロースクール生まれ、ハーバードビジネススクールで体系化

唯一の正解があるわけではない不確定要素の多い状況の中で、

ひとつとではなく意思決定する疑似体験

一つの状況に対して、多くの異なった意見・視点が提示されることで

自分の考え方のクセ（バイアス）を認識していくプロセス

教員は正解を教えるのではなく全体討議を促すことに注力する

参加者の発言と気づきが最も重要な学習資源

正しい答えはない。

意見交換を通じて“自ら考える力を養う”学習手法

2. ケースメソッドとの出会い

大学教育再生加速プログラム（AP）事業
タイプⅠ＆Ⅱ（アクティブラーニング＋学習成果の可視化）

金沢大学でアクティブラーニングを推進

これまではアクティブラーニングとは無縁の仕事・生活

多様な授業方法のひとつとして紹介された

自分の授業で取り入れてみた

学生と作る教材と授業デザインの楽しさ

授業で起こることが読めない楽しさと学生の満足度

2. ケースメソッドとの出会い

これからの大学経営に求められる能力

- ① 実践的な経営意思決定を行う実務能力
- ② 実務と理論を融合し、分野横断的に知識を体系化する能力

①②の養成を目的として、
金沢大学で独自のケースメソッド研修を開発・実践

さらに発展的な効果として

- (1) 世代や、職務系統・種別の垣根を越えた、職員の相互理解の深化
- (2) 組織間・個人間の風通しの良さの向上による業務パフォーマンスの向上
⇒将来的には、上述の能力を培った各人の創意工夫によって、
効果的なSD（能力開発）が自律的に構築・実施できるようになる

3. 日本のケースメソッド概観

ハーバード大学法学部において、判例を授業の教材として使用。1908年、法学部から独立した商学部が、この判例研究法を商学の授業に導入。

1920年に経営事例を取り上げ、そこで下さねばならない意思決定を学生に迫って討論させる「教授用事例集」を作成したのが原型。

その後、以下の2つに整理された。

- ①問題法または意思決定訓練としてのケースメソッド
- ②人間関係訓練としてのケースメソッド

3. 日本のケースメソッド概観

戦前、イギリス法学の一部の科目で導入されたが、ほとんど注目されなかった。

戦後、1962年に慶應義塾大学商学部でケースメソッドが採用された。1968年に人事院の「JST（Jinjiin Supervisory Training）指導者研究会議資料」に事例集としてまとめられた。その際に「事例研究」と翻訳されたため、今日のケースメソッド＝ケーススタディという誤解が生まれた。

ケースメソッドは教授法のひとつ
ケーススタディは研究方法のひとつ

3. 日本のケースメソッド概観

佐藤三郎（大阪市立大学）は1958年にスリランカで開催されたケースメソッドのワークショップに参加し、「事例法」と訳し、日本に展開した。

- ・看護教育への展開 日本赤十字社
- ・学校教育への展開 PTA 道德教育



4. ケースメソッド理論について

ケースメソッド教育のプロセス（竹内2010）

1. 個人予習
学生がひとりで考える学習時間（1 ケースあたり 3 時間）
2. グループ討議（10 名程度 1 グループ）
個人予習によって各自がどのようなことを考えてきたか、自由に意見交換をする学習時間（約 90 分）
3. クラス討議（60 名）
教師が加わり全員が一同に会して行う学習時間（90 分）
教師の役割は、学生に主体的に討議させつつ、討議を通して学生に考えて・学んで欲しいことに取り組みさせるために、討議の舵取りを行う。

5. まとめ

- ①生の教材を作り出せる 自由度と汎用性の高さ
- ②問題法または意思決定訓練としてのケースメソッド
- ③人間関係訓練としてのケースメソッド
- ④危機管理対応力や倫理観育成のケースメソッド

4. ケースメソッド理論について

ケースメソッド教育（竹内, 2010）はSDでそのまま転用は難しい

1. SD参加者は学生ではない
ー学びの共同体を作ることが難しい
ー学位取得のためでなく、評価がなく、競争も生まれない
2. SD参加者は全員リーダーではない
ー人間関係や人間そのものの理解が必要ではないか
①問題法または意思決定訓練としてのケースメソッド
②人間関係訓練としてのケースメソッド
3. 実施に時間的・人的リソースが十分に割けない

ケースメソッド教育のエッセンスは残しながら、
大学の文脈に即したケースメソッド型SD実践に取り組む

5. まとめ

■ケースメソッドの可能性

- ①ケース+スタディ&ライティング
学内課題を調べてケース教材で可視化する。
- ②ケース+プランニング
学内課題のケースを用いて新規企画を立てる。
- ③ケース+リーディング
ケースから多様な解釈をじっくりと読み取る。
- ④ケース+組織文化
自組織の文化をケースを通して知り、
あるべき姿に向けて対話を通して変えていく。